

# 朝鮮学校閉鎖令とは何だったのか

○講演：板垣竜太さん

-継続する朝鮮学校閉鎖令に抗するために-

同志社大学社会学部教授

朝鮮学校と民族教育の発展をめざす会・京滋（こっぼんおり）  
共同代表

○証言：裴永愛（ペ・ヨンエ）さん

学校閉鎖の体験者。愛知県在住。コリアン文化サークル代表



【阪神教育闘争 1948年4月26日府庁前放水】



【窓から出される裴ヨンエさん  
1950年 愛知県・守山朝鮮人学校】

◆オンライン（ZOOM）と会場参加の方法を取りますが**申込制**とします。

E-mail: leekyn 21@gmail.com

◆オンライン参加をご希望の方： QRコードからフォーム入力もしくはe-mailでお申込みの上、参加費（500円）、活動にご賛同・ご協力・ご支援いただける方は民族教育ネットワーク年会費（2,000円）をお支払いください。【郵便振替 00900-8-68725】

◆コロナの感染状況によっては、**オンラインのみになることもあります。必ず参加申し込みをしてください。**

コロナウイルスの感染予防のため、下記のご協力をお願いします

## ★お願い

◎マスクの着用をお願いします。

◎恐れ入りますが、風邪気味の方、熱や咳のある方は参加をご遠慮願います。

● 日時 2021年4月24日(土)  
15:00~17:30

受付 14:30

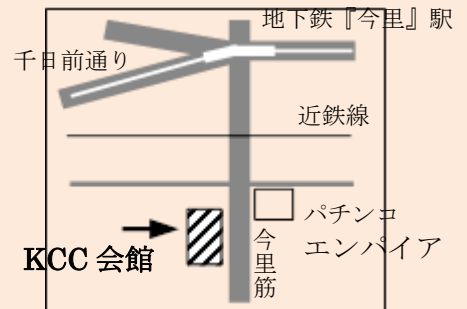
会場資料代：500円 <<学生無料>>

● 場所 KCC会館 5階  
(在日韓国基督教会館)  
大阪市生野区中川西 2-6-10

◆地下鉄千日前線・今里筋線『今里』駅

②番出口から南へ徒歩約15分

◆市バス：中川西公園前



## 趣旨文

4・24 阪神教育闘争 50 周年記念集会を経て、民族教育ネットワーク（1998 年・民ネット）が発足してから 23 年目を迎えます。民ネットは、在日コリアンと日本人の共通課題である「民族教育権利宣言」の具現化を目的として活動を行ってきました。民族教育権とは、民族的マイノリティの子どもたちが、自己の文化を享有し自己の言語を使用する権利であり、国際人権規約や子どもの権利条約などでも明記されている権利のことであります。また、多民族・多文化共生社会を築く際の重要課題でもあります。

1948 年 4.24 阪神教育闘争とは、公の暴力による学校閉鎖の弾圧に対し、在日コリアンが民族教育権を守るために闘った教育闘争のことです。民族的マイノリティの子どもである在日コリアンの子どもたちが、自己の文化や自己の言語を学び、民族的アイデンティティを育む教育の場である朝鮮人学校を、一方的な「閉鎖令」による通達と武装警官を動員しての強制閉鎖によって奪われた歴史的事実でもあります。

4・24 阪神教育闘争は、現在につながる日本の学校での民族学級、そして、学校閉鎖後再建された民族学校の歴史の源流となっています。また、多民族・多文化共生社会を構築する在日外国人教育政策のモデルともなってきました。

現在の状況は、民ネット結成時に掲げた「民族教育権利宣言」の課題—民族学校への法的・制度的差別の撤廃や日本の学校での民族学級の制度的保障および民族講師の身分保障の問題、民族的マイノリティとの共生を視野においた教育課程改革を含む、日本の学校文化の変革を目指す取り組み—から見ると、厳しい状況にあるといえます。とりわけ、高校無償化制度からの朝鮮学校排除や自治体からの補助金の廃止措置など、朝鮮学校で学ぶ子どもたちに対する公による差別政策がより露骨になっています。

本年の 73 周年記念集会では、「朝鮮学校閉鎖令とは何だったのか」をテーマに、講演と証言を予定しています。講演では、現在の状況とつながる本質的な問題について板垣竜太さんに講演していただきます。そして、当時の証言者として裴永愛さんに体験談を話していただきます。今回のセミナーを通して、阪神教育闘争の本質について知り、考えることによって、民族教育権の保障を踏まえた、多民族・多文化共生社会の構築に向けて行動する機会となることを期待します。

民族教育ネットワーク事務局